

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 6 月 4 日現在

機関番号：22304

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22792275

研究課題名（和文）児童思春期病棟における看護支援モデルの開発

研究課題名（英文）Development of the nursing support model in the child pubertal ward

研究代表者

関根 正（SEKINE TADASHI）

群馬県立県民健康科学大学・看護学部・准教授

研究者番号：20404931

研究成果の概要（和文）：

児童思春期病棟に勤務する看護師を対象として、職業的アイデンティティへの影響因子と看護に関する意識調査を実施した。調査より、職業的アイデンティティには、多職種で連携・協働して治療を進める治療的特徴と、看護師としての明確な役割の意識が影響していると考えられた。また児童思春期精神看護が看護師である自分に合っているという感覚が影響していることが示唆された。一方、看護に関する意識調査からは、思春期青年期にある患者に関わるという人間関係に重点を置いており、それゆえ、患者との人間関係という点に看護の魅力や困難さ、看護の役割や他の精神科病棟での看護との相違点を認識していることが示唆された。

研究成果の概要（英文）：

In the nurses who worked in the ward for child puberty, we conducted an attitude survey about affecter and the nursing to occupational identity. Cooperation, a remedial characteristic to collaborate, and to stimulate treatment and the consciousness of the clear role as the nurse were thought to influence identity more occupational than an investigation by the many types of job. Also, a sense that mental nursing fitted oneself who was a nurse for child puberty was thought to influence it. Whereas, from an attitude survey about the nursing, we put an important point in the human relations to be associated with the patients in the pubertal adolescence and therefore were thought to recognize a difference with the nursing in charm and difficulty of the nursing, a role of the nursing and other psychopathic wards at the point called the human relations with the patients.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	700,000	210,000	910,000
2011年度	600,000	180,000	780,000
2012年度	600,000	180,000	780,000
年度			
年度			
総計	1,900,000	570,000	1,113,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・高齢看護学

キーワード：精神看護学

1. 研究開始当初の背景

精神障害圏の初回エピソードに関する国

内外の疫学研究から、成人型精神疾患に罹患している成人の約 50%が 10 代前半に、約 75%が 10 代後半までに何らかの精神科的診断基準に該当していることが明らかになっている。つまり、精神障害圏の初回エピソードは 10 代を中心とした若者に集中しているとみることができ、精神疾患の早期支援の重要な対象として思春期青年期が挙げられる。

厚生労働省は「今後の精神保健医療福祉施策の更なる改革に向けて」（今後の精神保健医療のあり方等に関する検討会報告書、平成 21 年 9 月）の中で、若年層を対象とした早期支援体制の検討を重点施策の一つとして挙げていることから、思春期青年期を対象とした精神疾患の早期支援のための精神保健医療福祉体制の整備や、実践方法の確立は必須といえる。

児童思春期精神看護領域においては、早期支援の取り組みの活発化を背景に、統合失調症に加え、アスペルガー障害や小児自閉症等の児童思春期に好発しやすい障害に対する看護支援や、学校保健や地域保健システム等の多専門機関・職種との連携、早期支援における看護師の役割といった知見・実践の蓄積が進んでいる。

以上のように、思春期青年期にある若者層への早期支援の様相が明らかにされる一方で、予防医学的な視点からの啓蒙活動の不足、児童思春期専門医の不足、標準的な看護支援方法の未確立、専門的・包括的な診療・支援を提供する場へアクセスしにくいこと、精神科以外の医療機関、行政等の相談機関、学校における早期発見・早期支援の意義の認識不足に加え、これらの機関において精神疾患を早期に発見し専門医療機関に紹介する体制が未確立である等、多方面の課題も指摘されている。その中において、思春期青年期にある若者への看護支援の確立は必須といえる。

思春期青年期にある若者への看護支援（児童思春期精神看護）に関する先行研究を概観すると、児童思春期精神看護は、他の精神科病棟や小児科での看護と差はなく共通している部分が多いといわれていたが、知見や実践の蓄積により、児童思春期病棟での看護が提出されてきており、その専門性や独自性が明らかになってきている。一方、勤務する看護師を対象とした研究では、職務・職責に対する意識、役割や専門性、メンタルヘルスに関する内容が中心的課題として挙げられて

いる。

このことより、思春期青年期にある若者への看護支援の確立に向けての研究課題の 1 つとして、児童思春期病棟に勤務する看護師の看護に対する意識を明らかにすることにあるといえる。

2. 研究の目的

本研究期間は、児童思春期病棟における看護支援モデルの開発という研究構想の基礎的研究と位置づけ、児童思春期病棟に勤務する看護師を対象として、以下の点について明らかにしていく。

研究 1

児童思春期病棟における看護に関する意識（魅力、戸惑い、困難性、アイデンティティ、役割意識、看護観等）を明らかにする。

研究 2

児童思春期病棟における看護に関する意識（魅力、困難性、役割意識、他の精神科病棟との看護の相違等）を明らかにする。

3. 研究の方法

研究 1

A 地方の児童思春期病棟に勤務経験のある看護師を対象とし、4 つ質問紙（個人属性、職業的アイデンティティ尺度、看護婦の自律性測定尺度、看護婦の職務満足度尺度）より構成したアンケート調査を郵送法にて実施。

分析は、属性については単純集計。PISN、自律性測定尺度、職務満足度尺度については Shapiro-Wilk 検定、Cronbach' α 係数を算出後、児童思春期領域経験の有無から児童精神科看護師と精神科看護師に分け、Mann-Whitney の U 検定を行った。職業的 ID との因果関係の検討は、PISN 得点を従属変数とし、個人的属性と自律性測定尺度の下位尺度、職務満足度尺度の下位尺度を独立変数としたステップワイズ法による重回帰分析を行った。その後、従属変数による影響を比較するため、有意差のあった下位尺度と年齢を独立変数とし強制投入法を行った。個人属性は単純集計、尺度は、Mann-Whitney の U 検定、強制投入法による重回帰分析を行った。

研究 2

A 地方の児童思春期病棟に勤務経験のある看護師を対象とした基本的属性票と児童思

春期病棟における看護に対する意識を問う自由記述票、職業的アイデンティティ尺度により構成した質問紙調査を郵送法にて実施。

分析は、属性は単純集計。自由記述票については、項目ごとに対象者1名の記述を1記述とした。1記述内の意味内容に沿って分節化し、1コードとした。さらに類似性に従って抽象度をあげてカテゴリー化した。PISNは記述統計後、正規分布しているか否かのShapiro-Wilk検定を行い、基本的属性ごとにPISNの平均値の差を比較するため、Shapiro-Wilk検定で正規性を確認した結果、正規分布していた児童思春期病棟経験年数は一元配置分散分析、雇用形態は対応のないt検定を行った。一方、正規分布していなかった年代と精神科経験年数はKruskal Wallis検定、性別と資格はMann-Whitney検定を行った。

4. 研究成果

研究1

PISN、自律性測定尺度、職務満足度尺度の比較では、「職業的地位」、「看護管理」、PISN得点において有意差があり、児童精神科看護師の方が高かった。児童精神科看護師の職業的IDへの影響因子は、「実践能力」、「職業的地位」であった。

「職業的地位」、「看護管理」の高さは、多職種で連携・協働して治療を進めるという児童思春期領域の治療的特徴と、看護師としての明確な役割を意識していることが関連していると考えられた。また、PISN得点の高さは、看護師が看護の意義や役割を明確に自覚し、看護観が形成されていることや、児童思春期領域での看護が看護師である自分に合っているという感覚を感じていることが推察でき、これらの感覚が職業的IDの高さに関連していると考えられた。

児童思春期領域は、思春期青年期にある若者へのこころの問題に対する精神科治療的アプローチが社会的に求められている時代において、施策面でも医療サービス面でも整備されつつある新しい専門領域である。さらには、思春期青年期という発達段階にあるという看護の対象や、広範囲に亘る包括的な内容の支援や多機関・多職種連携が求められているといった治療上の独自性をもつ領域でもある。児童精神科看護師の職業的IDへの影響因子が「実践能力」、「職業的地位」であ

ることから、そのような児童思春期領域の独自性に表象される概念の因子が影響を与えていることが考えられた。

研究2

児童思春期病棟に勤務経験のある看護師の看護に対する意識として、看護の魅力については、24記述から33コード化できた。カテゴリーとして、【思春期という時期での関わり】、【人間としての成長】、【患者と家族との相互理解の促進】、【専門病棟の少ない分野】、【難しく感じない】の5つが抽出された。看護の困難さは、25記述から29コード化できた。カテゴリーとして、【関わり方】、【患者理解】、【家族との関わり】の3つが抽出された。児童思春期病棟における看護の役割は、24記述から41コード化できた。カテゴリーとして、【キーパーソン】、【情報提供者】、【家族との橋渡し】の3つが抽出された。看護する上で意識していることは、22記述から24コード化できた。カテゴリーとして、【距離感】、【全体像の把握】、【肯定的アセスメント】の3つが抽出された。

また、他の精神科病棟における看護と児童思春期病棟における看護との相違について、「ある」の回答が14名(61%)、「ない」の回答が6名(26%)、「わからない」の回答が3名(13%)であった。

看護師の基本的属性と職業的IDは性別と雇用形態で有意差が認められた。

このことより、児童思春期病棟に勤務する看護師は、思春期青年期にある患者に関わるという人間関係的な側面に意識の重点を置いて看護を行っており、それゆえ思春期青年期にある患者との人間関係という点に看護の魅力や困難さ、看護の役割や他の精神科病棟における看護との相違点を認識していると考えられた。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 関根正、内田正樹、木村共美他、児童思春期病棟に勤務する看護師の看護に対する意識、群馬県立県民健康科学大学紀要、査読有、7巻、63-74、2012
- ② 関根正、竹渕由恵、児童思春期病棟に勤務

する看護師の職業的アイデンティティに関する研究、群馬県立県民健康科学大学紀要、査読有、8巻、65 - 79、2013

〔学会発表〕（計1件）

関根正、児童精神科看護師の職業的専門性に関する研究、第21回日本看護科学学会学術集会、2012年12月1日、東京

6. 研究組織

(1) 研究代表者

関根 正 (SEKINE TADASHI)

群馬県立県民健康科学大学・看護学部・准教授

研究者番号：20404931